

活 用 事 例	京都市立桃陽総合支援学校	大杉仁彦教諭
担当：北村あゆみ教諭、西村悠里教諭、児島公子教諭		
活用事例タイトル	「言語活動による豊かな心の育成」 ～言語活動の充実を目指した I C T 機器の利活用～	
対象授業科目/活動	国語科	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	<p>(単元名・目標) 4年：作品のひみつをさぐる 「初雪のふる日」 ○読後感の基になる場面の様子を表す言葉や表現に着目し、理由を挙げて発表し合うことができるようにする。</p> <p>5年：構成や表現を工夫して書こう 「物語を作ろう」 ○文章全体の構成の効果や表現の効果を生かして物語を書くことができるようにする。</p> <p>(実施期間) 平成25年2月8日～2月27日 全10時間 (対象児童) 小学部4年(1名), 5年(7名) 計8名 (ICTの使用局面) 指導者：教材の提示 児 童：デジタルノート, 発表場面</p> <p>4年 ○デジタル教科書による読み聞かせ ○コラボノートで、読後感の基になる場面の様子を表す言葉や表現に着目し、観点ごとに分類する(自分のノートとしての活用) ○分教室児童との交流場面(TV会議システム) ○学習成果の発表場面</p> <p>5年 ○コラボノートで、1枚の写真から連想した言葉の中から特徴のある表現(言葉)を観点ごとに分類する(自分のノートとしての利用) ○物語の原稿を作成する(word) ○学習成果の発表場面</p>	
ICT活用により期待できる効果 ICT活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の提示場面における、視覚的效果</li> <li>○読み書き支援</li> <li>○発表場面での支援</li> <li>○学習意欲の向上</li> </ul>	
評価、振り返り(活動の評判や児童・生徒の声など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み書きが苦手な児童の、学習意欲が高まった(漢字を読むことが苦手な児童が、タブレットPCを使うことで漢字に興味をもち、読めるようになった)。</li> <li>○学習成果の発表場面で、どの児童も自信をもって発表することができていた。</li> <li>○児童のPC操作スキル(プレゼン作成, コラボノート, word)が向上した。</li> <li>○「人前で発表するのが苦手だったけど、自分が作った物語をたくさんの人に向けて発表したいと思うようになった。」(児童の感想) →発信したいという意欲の向上が見られた。</li> </ul>	

<p>その他 (関連 WEB サイト等ありましたらご記入ください。)</p>	<p>文部科学省「学びのイノベーション事業」、総務省「フューチャースクール推進事業」 <a href="http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/toyo-y/future_school/index.html">http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/toyo-y/future_school/index.html</a></p>
--	--

## 国語科 授業デザイン

日	時：平成25年2月15日（金）第5校時（13時15分～14時00分）
学	年：本校小学部 4・5年
授業者	：児島公子
授業場所	：本校小学部4・5年教室

<b>児童生徒の障害</b>	
■病弱	（ 7名：内 発達障害 5名 ）
■病弱・知的	重複障害（ 1名 ）
□病弱・肢体不自由	重複障害（ 0名 ）
4年（1名），5年（7名）	

### 1. 単元（題材）名

- 4年：作品のひみつをさぐろう 初雪のふる日  
 5年：構成や表現を工夫して書こう 物語を作ろう

### (2) 単元（題材）の目標

- (4年) ・読後感の基になる場面の様子を表す言葉や表現に着目し、理由を挙げて発  
 表し合うことができるようにする。  
 (5年) ・文章全体の構成の効果や表現の効果や表現を工夫して物語を書くことができるよ  
 うにする。

### 3. 単元（題材）の指導計画（全10時間）

時	主な学習活動・内容	主な使用機器
第1時	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>(4年)</p> <p>○今までに学習した物語を振り返り「読後感とは作品のどこから来るのか考え、作品のひみつをさぐろう。」という学習課題を設定する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(5年)</p> <p>○教科書の写真から情景や様子を想像し、学習計画を立てる。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IWB</li> <li>・教材提示装置</li> <li>・TPC</li> <li>・プロジェクター</li> <li>・プロジェクター型IWB</li> </ul>
第2時	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○作品の組み立てを考えながら読む。</p> <p>○「初雪のふる日」の読後感を交流する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○物語のおおまかなイメージを思い浮かべる。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IWB</li> <li>・教材提示装置</li> <li>・TPC</li> <li>・プロジェクター</li> <li>・プロジェクター型IWB</li> </ul>
第3時	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>○読後感につながる叙述を見つけるために、場面の様子や登場人物の様子・行動・気持ちに着目して読む。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○物語のおおまかな構成を考える。登場人物や人柄などを設定し、話の組み立てを決める。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IWB</li> <li>・教材提示装置</li> <li>・TPC</li> <li>・プロジェクター</li> <li>・プロジェクター型IWB</li> </ul>

第4時 (本時)	○読後感につながる叙述を見つけるために、場面の様子や登場人物の様子・行動・気持ちに着目して読む。	○表現を工夫して、物語を書く。観点に沿って、物語を書く。	・IWB ・TPC ・プロジェクター ・プロジェクター型IWB
第5時	○読後感につながる叙述を見つけるために、場面の様子や登場人物の様子・行動・気持ちに着目して読む。	○表現を工夫して、物語を書く。観点に沿って、物語を書く。	・IWB ・TPC ・プロジェクター ・プロジェクター型IWB
第6時	○「自分が見つけた作品のひみつ」を発表するための「ひみつ」をPPにまとめる。	○書いた物語をPPにまとめる。	・IWB ・TPC ・プロジェクター ・プロジェクター型IWB
第7時	○「自分が見つけた作品のひみつ」について発表するための原稿をPPにまとめる。	○書いた物語をPPにまとめる。	・IWB ・TPC ・プロジェクター ・プロジェクター型IWB
第8時	○ひみつを見付けるために、安房直子さんの他の作品を読む。	○物語作りの過程で、友達と読み合い、助言し合う。	・IWB ・TPC ・プロジェクター ・プロジェクター型IWB
第9時	○5年生と合同発表会をする。読書交流会「『初雪のふる日』のひみつ」発表会を開く。	○4年生と合同発表会をする。作品を発表し、構成や表現など作品のよさを深く味わう。	・IWB ・TPC ・プロジェクター ・プロジェクター型IWB
第10時	○5年生と合同発表会をする。読書交流会「『初雪のふる日』のひみつ」発表会を開く。	○4年生と合同発表会をする。作品を発表し、構成や表現など作品のよさを深く味わう。	・IWB ・TPC ・プロジェクター ・プロジェクター型IWB

#### 4. 本時の目標

(4年)・視点に沿って言葉を分類し、言葉から感じたことや語感について気づいたことを書けるようにする。

(5年)・自分の物語にふさわしい表現の効果を考えたり、確かめたりして物語を書けるようにする。

5. 本時の情報通信技術（ICT）活用

活用する場面	発表の場面
活用する者〔目的〕	・児童・生徒〔学習したことを発表する〕 ・指導者〔教材の提示〕
活用するコンテンツ	コラボノート，デジタル教科書
活用する機器	IWB，TPC，プロジェクター，プロジェクター型IWB

6. 本時の展開①（4年）

	学 習 活 動	活用機器 (活用者)	指導上の留意点・支援内容 【ICTによる支援】
導 入	<p><b>一斉学習</b></p> <p>○本時の流れを説明する。</p> <p>「作品のひみつ」につながる叙述を見つけよう。</p>	プロジェクター型IWB (指導者)	【新たに書きこまれたコラボノートのページが全体で共有できるようにする。】
展 開	<p><b>個別学習</b></p> <p>○前時までにコラボノートに書き抜いた言葉や文をP117を参考にしながら視点を決めて分類・整理する。</p>	TPC (児童)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「天気や天候」「色や触った感じ」「大きさや数」「繰り返し出てくる表現」「修飾語」「文末表現」などの視点の中からいくつかを選んで言葉を分類するようにする。</li> </ul>
ま と め	<p><b>協働学習</b></p> <p>○視点ごとに，気がついたことや思ったことをノートに書く。</p> <p>○気がついたことや思ったことを発表する。</p> <p>○次回の予告をする。</p>	<p>プロジェクター型IWB (指導者)</p> <p>プロジェクター型IWB (指導者・児童)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の読後感や今までの経験などに関連させて考えられるようにする。</li> </ul> <p>【分教室のコラボノートのページを確認できるようにする。】</p> <p>(評価の観点：読・言) 視点に沿って言葉を分類し，言葉から感じたことや語感について気付いたことを書いている。&lt;コラボノート・ワークシート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生に向けて発表できるようにする。</li> </ul> <p>【書きこまれたコラボノートのページが全体で共有できるようにする。】</p>

本時の展開②（5年）

	学 習 活 動	活用機器 (活用者)	指導上の留意点・支援内容 【ICTによる支援】
導 入	<p><b>一斉学習</b></p> <p>○本時の流れを説明する。</p> <p>表現を工夫して、物語を書こう。</p>	IWB (指導者)	<p>【新たに書きこまれたコラボノートのページが全体で共有できるようにする。】</p>
展 開	<p><b>個別学習</b></p> <p>○コラボノートのワークシートに観点ごとに言葉を書きこむ。</p> <p>観点一・においや色，音が感じられる言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たとえや様子を表す言葉</li> <li>・話し言葉に方言</li> <li>・地の文が一人語り</li> <li>・書きだし</li> </ul>	TPC (児童) IWB (指導者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特徴のある表現例を用意し，自分の物語に合った工夫ができるようにする。</li> </ul>
ま と め	<p><b>協働学習</b></p> <p>○表現の効果を考えたり，確かめたりして物語を書く。</p> <p>○気がついたことや思ったことを発表する。</p> <p>○次回の予告をする。</p>	IWB (指導者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの書き込みを読んで，自分の物語にふさわしい表現の効果を，さらにひろげて考えられるようにする。</li> </ul> <p>(評価の観点：書) 自分の物語にふさわしい表現の効果を考えたり，確かめたりして物語を書いている。 &lt;コラボノート，作品&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生に向けて発表できるようにする。</li> </ul> <p>【書きこまれたコラボノートのページが全体で共有できるようにする。】</p>



7. 準備物

教材提示装置，IWB，TPC，プロジェクター，プロジェクター型IWB，デジタル教科書，コラボノート